津山工業高等専門学校	開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	日本社会論
科目基礎情報				
科目番号	0096	科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	総合理工学科(電気電子システム系)	対象学年	4	
開設期	前期	週時間数	2	
教科書/教材	「憲法への招待 新版」 渋谷秀樹 岩波書店, 六法全書			
担当教員	大田肇 (一般), 江原 由美子			
到達目標				
学習目的: 国家の成立および役割を理解していくとともに, 諸国家が創り出す国際関係についても論究していく。				
到達目標 ◎ 1 日本国憲法の特異性と普遍性を理解できる。 ◎ 2 日本国憲法の人権保障について理解できる。 ◎ 3 日本国憲法の統治機構について理解できる。				
ルーブリック				
	優	良	可	不可
評価項目1	日本国憲法の特異性と普遍性について、歴史的、比較法的に理解できる。	日本国憲法の特異性と普遍性について、具体的に理解できる。	日本国憲法の特異性と普遍性の基礎を理解できる。	左記に達していない。
評価項目2	日本国憲法の人権保障について、歴史的、比較法的に理解できる。	日本国憲法の人権保障について、具体的に理解できる。	日本国憲法の人権保障の基礎を理解できる。	左記に達していない。
評価項目3	日本国憲法の統治機構について、歴史的、比較法的に理解できる。	日本国憲法の統治機構について、具体的に理解できる。	日本国憲法の統治機構の基礎を理解できる。	左記に達していない。
学科の到達目標項目との関係				
教育方法等				
概要	一般・専門の別: 専門 学習の分野: 国際コミュニケーション 基礎となる学問分野: 法学/政治学/経済学 学習教育目標との関連: 本科目は学習教育目標①「教養豊かな実践的人間力の養成」、⑤「グローバルな視点と社会性の養成」、⑦「コミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成」に相当する科目である。 授業の概要: 国際化の時代において、国家の役割は相対的に低下しつつあるとは言え、それに代わる権力組織は存在しない。その動きを、憲法という視点から探っていく。			
授業の進め方・方法	授業の方法: テキスト・資料などを適量に分けて概説し、それらに関する質疑応答をおこなう。 成績評価方法: ・ 100% = 前期末試験 100% 再試験は実施しない。			
注意点	履修上の注意: 本科目を選択した者は、学年の課程修了のために履修(欠課時間数が所定授業時間数の3分の1以下)が必須である。また、本科目は「授業時間外の学修を必要とする科目」である。当該授業時間と授業時間外の学修を合わせて、1単位あたり45時間の学修が必要である。授業時間外の学修については、担当教員の指示に従うこと。 履修のアドバイス: 「黙っていても、技術で喰っていける」時代は過ぎ去った。最低限の表現能力は、身につけよう。 事前に行う準備学習は、教科書の該当箇所を読んでおくこと、新聞・テレビ・ラジオなどのニュースの中の、政治的・社会的に重要なものに触れておくこと。 基礎科目: 政治経済(2年) 関連科目: 異文化社会論Ⅱ(4年) 受講上のアドバイス: 「沈黙は金」ではなく、「沈黙は成績不可への道」と思って、積極的に発言しよう。そのために、教科書を事前にしっかりと読もう。そうした「予習」をやりやすくするために、比較的わかりやすい論理の本を教科書に選んだ。こうして、君の文章読解力も鍛えられるという高専最終学年にふさわしいオールラウンド型の講義となる。 遅刻が多くなった場合は、その時点で、指示を出します。			
授業の属性・履修上の区分				
☐ アクティブラーニング ☐ ICT 利用 ☐ 遠隔授業対応 ☐ 実務経験のある教員による授業				
履修選択				
授業計画				
	週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス	講義の流れ
		2週	法学入門(1)	法とは何か
		3週	法学入門(2)	法の分類等
		4週	人権	人権の内容
		5週	同上	同上
		6週	同上	同上
		7週	同上	同上
		8週	日本の統治構造	3権の関係
	2ndQ	9週	同上	同上
		10週	日本における裁判所の役割	裁判所の役割とその限界
		11週	判例研究 平和主義	判決の理解
		12週	安全保障と平和主義	安全保障と平和主義の関係

		13週	I T技術とプライバシー	I T技術とプライバシーの関係
		14週	I T技術と個人の尊厳	I T技術と個人の尊厳との関係
		15週	前期末試験	
		16週	前期末試験の返却と解答説明	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	工学基礎	グローバル ゼーション ・異文化多 文化理解	グローバル ゼーション ・異文化多 文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	2	
				様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	2	
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	2	
				それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	0	60
専門的能力	20	0	0	0	0	0	20
分野横断的能力	20	0	0	0	0	0	20